

「15の夜の自由」

(導入)

思い出してみてください。あなたの学校に「不良」と言われる人たちはいませんか？皆さんの生まれ育った環境により異なるとは思いますが、全くいなかった、と答える人はおそらくいないと思います。怖い、危険、落ちこぼれ、捉え方は様々ですが、基本的に皆さんはこのような少年にネガティブなイメージを持っていると思います。本弁論では、不良について考えていきたいと思います。

(問題意識)

さて、このような人は一般に「非行少年」とよばれています。非行とは、未成年者が行う犯罪行為や、その恐れのある行為全般を指します。その範囲は比較的軽度な深夜徘徊といったものから、重度な傷害事件など様々です。認知されただけでも、2012年度の非行件数は年間8万件近くにも及びます。少子化によって全体数は減少しているものの、人口比では数十年間ほとんど変化していません。さらに、注目すべき点があります。非行の再犯率は、年々上昇傾向にあるのです。一度非行をした少年たちは、再び非行へと手を染めてしまっているのです。だからこそ、非行がエスカレートして取り返しのつかなくなる前に、非行から彼らの手を引かせる必要があります。

快楽殺人のようなごく一部の凶悪犯を除けば、非行は家庭や社会から逸脱してしまったと感じた時に行われます。そう、非行少年には、居場所がないのです。それは、孤独を意味します。想像してみてください。あなたが家族から、友人から、口も聞いてもらえなかったとしたら。あなたの全てを否定されたとしたら。誰も理解者がいない、そう感じる時、やるせない感情がわき起こるのではないのでしょうか。まして少年たちは思春期のまっただ中です。そんな多感な時期に、自分の存在を受け入れてくれる人が誰もいないことが、いかに孤独であるか、想像に難くありません。その孤独な感情が、居場所を失った少年たちを非行へと駆り立てるのです。つまり非行とは、居場所を失った少年が誰かに気付いてほしいと感じて行う、社会の病理が最も表出した問題なのです。だからこそ、少年非行という問題は、孤独を感じている少年を受け入れない社会自体を変える必要があります。しかし現行の非行対策では、少年法の厳罰化や補導などの取り締まりばかりに重点が置かれています。つまり、非行少年にとってほんとうに大切な、居場所作りは行われてこなかったのです。再犯率が上昇していることも、少年たちを非行へと導く根本的な原因が解決していない、他ならぬ証左なのです。

本弁論の目的は、「非行少年の居場所を作り、社会の一員として更生させること」にあ

ります！

（現状分析）

では一体、どれくらいの非行少年たちが居場所が無く、孤独を感じているのでしょうか。勿論、少年たちが非行を行うに至った原因は様々で、誰一人同じものはありません。しかし、非行を繰り返す少年は、両親からのコミュニケーションの良好さを示す指標が一般の少年たちの5分の1しかありません。また、学校になじめないと答えた割合が一般の少年の7倍にも及びます。つまり、非行を行う少年たちに通底している問題は、家庭や学校に居場所が無いと感じていることなのです。

（原因分析）

ではなぜ、少年たちは家庭や学校で居場所を見失ってしまうのでしょうか。まず家庭についてご説明します。先ほど、家庭におけるコミュニケーションの良好さが一般の少年の5分の1であるをご説明しました。もう少し具体的に見ていくと、非行少年の約7割に親からの虐待経験が見受けられます。また、何らかの家庭不和があった少年は8割にも上ります。これらから言えることは、少年たちは家庭の中で居場所が無く、自らの感情を家族から理解してもらえていないということです。

次に、学校において居場所が無いということについてご説明します。先ほど、学校になじめない割合が一般の7倍であるをご説明しました。他にも、学校で友人と楽しく過ごしたことが無いと答えた割合は一般の少年の10倍以上にも上ります。つまり、学校が自分の居場所では無くなっているのです。

ここまで、非行少年がいかに家庭や社会の中で居場所が無いと感じているかについてご説明しました。つまり、彼らに孤独を感じさせないために、居場所を担保する必要があるのです。

（政策）

以上を踏まえ、家庭と社会で居場所を担保するために、2点の政策を提示します！一つ目は、家庭におけるファミリーグループカンファレンス、FGCの導入。二つ目は、ソーシャルスキルトレーニング、SSTの実施です。

まず一つ目、家庭におけるファミリーグループカンファレンス、FGCの導入についてご説明します。FGCとは、家族と少年との対話により家庭の問題を解決することに焦点を当てた取り組みです。

ここで、非行少年の家庭における FGC の導入について、具体的にご説明します。ここではまず、問題性が発覚したと同時に、児童相談所の職員が少年と家族との仲介者となります。そして、職員が少年と家族との関係を診断し、少年と家族に説明を行います。その後、少年と家族とで関係の修復方法について話し合います。

この流れについて、さらに具体的にご説明します。

例えば、少年が親の約束を守らなかった時に、親がしつけとして暴力をふるったとします。この時まず、児童相談所の職員を交え、少年に「どうして約束を守らなかったのか」その理由を教えます。そして、職員が家族に対し、子どもの気持ちを説明し、暴力に頼らないしつけの方法について指摘します。その後、少年と家族だけの話し合いの場を設けます。そこで、どうすれば約束を守れるようになるのか、守れなかった場合にどのように接するべきなのか話し合います。このようにお互いの気持ちを理解することこそが、家庭の中で少年の居場所を確保するために必要なのです。

実際に、欧米をはじめ先進国ではこの FGC は広く行われており、シンガポールでは非行の再犯率が半数以下に減少しています。

次に、二つ目の政策、ソーシャルスキルトレーニング、SST の実施についてご説明します。

先ほど述べたように少年たちは学校をはじめ、社会の中で周囲に理解されることを放棄し、その居場所を失くさざるを得なくなっています。

そこで、学校教育段階においてソーシャルスキルトレーニング、SST を実施します。

SST とは、社会生活のなかでの対人関係に重点を置いた、コミュニケーション能力の育成に特化したプログラムです。具体例を用いてご説明します。A 君と、意見の違う B 君の二人がいたとします。この時、A 君は B 君に自分の意見を否定されてしまいました。しかし、すぐに怒ってしまえば B 君との関係は悪くなるばかりです。SST では、この時、A 君が自分の意見を伝えながらも、相手の意見を尊重できるようにするにはどうすればいいか考えます。

このように相手の感情を理解した上で、自分の意見を表明することで、少年は他の人との距離感を保ちながらも、学校で居場所を確保することができるようになります。実際に、この SST を実施した学校では、いじめの数が 7 割も減少しています。

ソーシャルスキルトレーニングを学校で実施することで、少年たちが居場所を無くしてしまうことを未然に防止することができるのです。

(締め)

このように、家庭や社会の中で少年たちが居場所を見つけられることこそが、居場所が無く逸脱したと感ずることで行われる少年非行の一番の解決になるのです。

少年法の厳罰化などが叫ばれる今、非行少年にとってほんとうに必要なのは、犯罪者だとレッテル貼りをすることではありません。しかし、人を傷つける非行を許すことはできません。非行を無かったことにして、甘やかすような優しさは要りません。

ほんとうに必要なのは、他ならぬ居場所を作ってあげることなのです！

ご清聴有り難うございました。